



# alaクルーズ

広報第4号  
平成15年7月27日

## alaクルーズ 平成15年度通常総会

alaクルーズの平成15年度通常総会が、5月31日(土)映像シアターで開催されました。会員数89名の内、月末という事もあってか出席者は37名と少なかつたものの、委任状を含めて78名が参加しての総会となりました。

澤野会長の挨拶の後、議長に支援グループの久米さんが指名され議事の進行が行なわれました。島田



副会長による平成14年度の事業報告、佐々会計からの収支決算報告があり質疑応答の後全会一致で承認されました。その後、平成15年度事業計画、予算案及び役員一部変更案、会則変更案が上程され



それぞれ全会一致で可決承認されました。最後に澤野会長よりNPO法人設立に向けた活動が報告され、議事を終了致しました。

続いて桑谷館長の来賓挨拶があり、来場者が月平均2万人を超え、施設稼働率も70%以上である事が紹介されました。また清水教授からは他の劇場とのネットワークの重要性に触れられalaクルーズのホームページの見直しを助言されました。こうして45分間の総会は全議案を原案通り可決承認して終了しました。



## alaクルーズ 第2回交流会

総会終了後、会場をレセプションホールに移して、第2回目のalaクルーズ交流会が開催されました。

余興でビンゴゲームが行なわれました。最初なかなか出なかつたビンゴも徐々に始めましたが、景品は机の上に包装して置かれた中から順番に自分で選ぶものでした。どれが良い景品なのか分からず迷う姿も見られ、皆からひやかされていました。こうしてみんなに景品が渡っていきましたが、最後までビンゴを達成できなかった広報グループの奥村さんだけが景品がなくなってしまい、落ち込んでいました。そこへ突然特大の包装の景品が奥から出されて、手渡され大喜びするという心憎い演出に拍手喝采でした。残り物に福があると言いますが、きっと素晴らしい景品だったことでしょう。



最後に全員で記念写真を撮り、交流会は終了しました。(カメラマンの奥村さんだけは写ることが出来ずに悔しがっていました。)



# NPO 法人ってなんだろう？

「NPO法人ってなんだろう？」と題して青海康男氏の講演が4月19日(土)午後7時から映像シアターで行なわれました。

青海氏は「金沢市民芸術村ドラマ工房こけら落とし演劇祭」やNPO法人「いしかわ市民活動ネットワークセンター」などの活動を続けられています。可見市でも「市民活動スタッフ養成基礎講座」などの講師を勤められ今回で3回目の講演となります。

講演の内容は現在alaクルーズで進めている、NPO法人化に向けて疑問に思うことなどをメンバーの大石さんと中村さん二人のコントを交えて進められました。わかりやすい解説も入り会員との質疑応答にも



気安く応じられこれからの私たちの活動にひとつの道筋をつけてくれたように感じたひとときでした。

## NPO法人化委員会

alaクルーズではNPO法人化に向けて「NPO法人化委員会」を設立しました。今後alaクルーズでは会員がNPOについて学ぶ必要があります。そこで委員会が中心になり、研究会を開催して各会員が理解しNPO法人化を進めなければなりません。皆さんも「NPO法人化委員会」に参加しましょう。



## alaクルーズのホームページ委員会ができました

今までのホームページは広報グループが担当してきましたが、きめ細かな内容を掲載することはできませんでした。そこで各グループのページについてはグループで担当することになり、各グループから2名出ていただき、5月28日(木)に第1回の委



員会を開催し内容の検討、注意点などを話し合い8月中旬には新しいホームページを作ることになりました。又、各グループの紹介だけでなく、会員同士の連携を図るため会員個々のホームページなど手広くネットの活用を図っていきます。新しいalaクルーズのホームページに期待しています！！



<http://www.kpac.or.jp/alacrews>

## 「広報紙づくり」を受講して

可見市PTA連合会主催の「PTA新聞・広報紙づくり」の講習会が5月11日「ゆとりピア」において行われました。広報グループからもメンバー3人が受講しました。受講者は約79名でPTAに携わる女性が多く、男性は少し恥ずかしいような雰囲気でした。

講師は「中日新聞社」整理部記者の方で、皆さんに楽しく読んでいただく「広報紙」を目指す紙面作りのポイントと編集のコツをお話しされました。取材に始まり記事の書き方、寄稿記事の依頼の仕方など、写真・イラストの効果的なレイアウトまで、構成の勘所(ノウハウ)を具体的な実例を挙げて説明されました。また、見出しについてもそれを見れば記事の内容が一目でわかるような核心をつくることが大切と話され受講者は熱心にメモをとっていました。

3時間あまりの講習でしたが、紙面作りの大切なポイントを学ぶことができました。





## 視察団が来館しました



は出来ないと言っていました。

午後より美術ロフトにおいて館長、alaクルーズ 会長を含めて説明会が開かれ、施設については職員の構成、稼働率、省エネ対策、館長の権限、赤字の補填方法等、alaクルーズについては会員の募集方法、運営方法等について熱心に質疑がなされた。

近い将来可児のアーラが飛弾古川町の文化に羽ばたくものと想われました。

### 古川町の見学会

5月17日(土) NHK朝の連続ドラマ“さくら”の舞台になった飛弾古川町より文化会館建設計画を持った30名の視察団がalaを訪問しました。

一行は、町関係者、住民団体代表、設計士と多彩な顔ぶれで、早速館内の見学に入ったが、あいにくほとんどの施設が利用されており外から観るにとどまりました。しかし掲示板を熱心に見入る人が多く、活動状況と利用方法から施設のあり方や設計に生かそうとする姿勢が伺えた。金沢在住の設計士は地域文化を理解した上で機能性を考えなければ設計



5月29日(木) 愛知県長久手市『文化の家』の川上實館長と支援グループ『フレンズ』のメンバーが視察に訪れました。『文化の家』は平成10年7月の開館で、alaクルーズでもお世話になっている名古屋大学の清水教授が当初より運営委員として参画されています。alaクルーズ同様市民参加の支援グループ『フレンズ』が活躍しており、alaオープンに際してこちらもいろいろと見学させていただきました。

一行はまず映像シアターで広報グループが撮影したalaオープン時のalaクルーズの活動ビデオなどを見た後、館内を見学しました。特に主劇場、小劇

### 長久手市『文化の家』館長 及び『フレンズ』のメンバー

場では場内の様々な設備に感心して大きく頷いていました。また開演時のお客さまの案内方法などを一緒に案内した支援グループのメンバーに細かく質問して熱心に見まわっていました。最後に再び映像シアターでalaクルーズの運営方法などについて質疑応答が行なわれました。特にフロントスタッフの活動の様子や、資料として渡した広報紙の出来映えに大きな関心を寄せていました。約2時間半の短い時間でしたが、alaクルーズの活動の様子は十分に理解されたことと思います。これを契機にお互いの交流が更に深まることを期待いたします。



